



七五三詣

- ※10月～11月末
- ※受付随時(予約)

ご祈願をお受けになられた方には、お札、お守り千歳飴、風車、記念品をお授け致します。(服装自由)

新春初詣

お詣りください。

◆新春家内安全護摩祈願、その他の護摩祈願

予約受付は、12月1日から(直接、郵便、電話、ファクスで)
※予約時には、ご祈祷料(2千円)は不要です。

- 初詣の際、お札をお渡しします。
- 正月に参拝できない方にはお札を郵送します。
- ◎予約なしで、初詣の際にお申し込みもできます。

◆特別祈祷 家内安全・厄除・試験合格・病気平癒等

※通常のご祈祷です。(御祈祷の説明書あります)
初詣の期間も、通常通り行っています。
受所で直接お申し込み下さい。
毎日 午前9時～午後4時 予約不要。



11月 10月 秋の花暦

サザンカ	シモバシラ	フレモコウ
キチジョウソウ	アキギリ	シユウメイギク
モミジ	ホトトギス	フジバカマ
セマリンドウ	アキチヨウジ	ツリフネソウ
サツマンギク	ダイモンジソウ	

※この秋、「珠山千年石の庭」の改修を行います。

住職のお話

さあ、紅葉狩りにいきましょ

9月下旬のある団体様のご法話のときのことで。70代の方が中心の団体さんでした。皆さん、明るく前向きな方ばかりのように見受けました。楽しい雰囲気でした。参加者の方が、「こんな明るい集まりになったのは久しぶりです」と言われるものですから、昼間でしたが、「蛍光灯を替えたばかりです」とお返事しておきました。皆さん、いろいろなことに興味を持っておられるようでした。仕事を生きがいにする、60歳で終わり。子どもを生きがいにする、子どもが自立すれば終わり。それでも仕事一筋にすると地域に溶け込みにくくなります。元板前さんに地域の弁当作りを依頼したら、やがて先生と呼ばれるようになった。年賀状の宛名を上手に書いてくる人には看板作りを頼んだ、などのお話があります。ボケない秘訣は、“でしゃばりで、キザでおしゃれで能天気、少しエッチでカラオケ大好き”だそうです。こういう心境でお友だちとやりたいことをやっていれば楽しそうですね。ぜひ挑戦してみま

(注：文字数の関係で、今回は一面としました)

せんか。人生は、生まれ落ちた瞬間から老化が始まるという説がありますが、これは少々夢がありません。せめて、人生1/4は成長し、3/4は老いていくということでしょうか。百歳を過ぎても、死なない人はなかなか死にません。人の寿命は仏さまが決めてくれます。私どもは、いただいた命をありがたく精一杯生きるのみです。



如意寺仁王さんのイラスト (某氏からの投稿)

友情、家族愛、畑の野菜、社会活動、そして仏さま。何か信じるものを持って困難な道を歩く人が美しいと言います。「信」が人をいっそう美しくします。いくら美人でもイケメンでも経年変化をします。「美貌」は変化しますが、「容色」は益々輝きを増します。心の持ち方次第、すべては“気のせい”です。

「あなたは、最近、年齢を感じますか?」、「ハイ」、「気のせいです!」

さあ、お弁当を持って紅葉狩りに出かけませんか。

前号の「如意寺本尊会特集」につづき、今回は、「祈禱寺としての如意寺の歴史」を知りたいという多く方のご要望にお応えした記事です。ほぼ一面を要しましたので、いつものお話は、一面の下段を使わせていただきました。新年号からは、この面に住職のお話を再開しますので、ご容赦ください。

如意寺の歴史⑦

『^き ^{とう} ^{でら} 祈禱寺』としての歴史

江戸時代、徳川幕府は寺請制度^{てらうけ}を確立し、どこかの寺院に所属することを求めました。檀家制度の始まりです。こうして檀那寺^{だんな}は祖先崇拜の側面を強く持つことになりました。このように寺檀関係を持つ寺院を「回向寺^{えこう}」と呼びます。

一方、密教(真言宗・天台宗)は、当時の奈良仏教の世俗化への反発もあり、平安時代から山岳での修行を重視しました。特に、貴族などが、修行僧の持つ法力に現世利益や病魔退散を期待したこともあり、山岳仏教は皇室や朝廷の庇護を受けて急速に発展しました。西国寺院も同様の歴史を持つ寺が多く、これらを「祈禱寺」と呼びます。如意寺は「祈禱寺」の方で、鎌倉時代、伏見天皇の勅願寺となりました。祈禱寺は、厄除、無病息災、恋愛成就といった個人レベルの願い、五穀豊穰、商売繁昌、家内安全など、家やお店の繁栄を願いました。また、定期的な開帳や縁日を行い多くの信徒を集めました。

西国三十三所の札所は基本的に「祈禱寺」であり、本尊はすべて観音菩薩です。なお、札所本尊と寺院全体の本尊とは異なる場合がかなりあります。たとえば、21番穴太寺では札所本尊は聖観音ですが、寺本尊は薬師如来です。如意寺の本尊は十一面観音(秘仏)ですが、持仏堂本尊(公開)は阿弥陀如来です。また、西国三十三所の札所本尊は秘仏となっているものが多く、秘仏でないのは五箇所のみです。如意寺の本尊も秘仏です。以上、如意寺は約千三百年の歴史を持ちますが、その特徴は、檀家がほとんどないこと、山岳立地、本尊が観音様で二本尊制で、秘仏であることなど、西国三十三カ所寺院ととてもよく似ています。(都市部の西国寺院は、近代において檀家が急増している場合もあります)。

『如意寺だよりNo.14』でも触れましたように、如意寺も50年前までは観音山中腹にあり院家十二坊を有し、松尾寺、成相寺、花山院などと酷似した境内景観を示していました。

久美浜の如意寺の立地する一帯は、江戸時代後半135年間、幕府直轄地(天領)であり、如意寺は寺領五百石でした。現在の久美浜小学校の地にあった代官所

より、代官が約2kmの距離を歩いて写真にある旧如意寺に参拝し、住職と語り合ったと思われる記録があります。江戸時代の本堂の修復には、代官野村源九郎の許可を得たとの記録もあります。江戸時代直前の話ですが、No.12に記した『如意寺 家康文書』などは、久美浜城主と当時の住職との親密な交流を示すものです。

以上の様子を、『熊野郡誌』は、「如意寺は、衆生^{しゅじょう}を済度し、教法を弘め、萬民^{ばんみん}婦依^{きえ}の中心となりて、参拝・参籠^{さんろう}する者常に絶えず、以て今日に至れり」とあります。大正7年の大雨による崖崩れで旧境内の本堂が倒壊した際には、当時の町長、稲葉市郎右衛門氏による二千元の寄付を初めとした多くの浄財によって無事復興がなされました。建築時の石場突きには、毎日、久美浜(当時は熊野郡)中の各部落から、部落単位で多くの男衆が出仕し、交代で終日石場突きの奉仕をされたと、亡き父から聞いています。



観音山中腹にあった旧境内(町から見えた)。下は久美浜湾。

ことは



- 人とはお互い生きている内にしっかり付き合おう。
- 整理されていれば、仕事はどれだけ多くてもかまわない。
(でも、見通しのないのが仕事なんですね)
- 自我は、つくってから捨てる。
- 細部に神が宿る。過去に未来がある。日常に永遠がある。

